

「リビングルーム」日本公演

振付・衣裳・舞台美術・壁紙デザイン：インバル・ピント
出演：モラン・ミュラー、イタマール・セルッシ
オリジナル楽曲：マヤ・ベルシツマン
照明デザイン：タマル・オール
アニメーション：ダニエラ・ポコール
特殊小道具：ニル・ゼイリ
衣裳アシスタント：リナット・アハロンソン
リハーサル・マネージャー：ディナ・ズィヴ
舞台写真：ミカル・シエルビン、ダニエル・チチク
テクニカル・マネージャー：ボアズ・ベジャ・ギラッド
ステージマネージャー：ネタ・アミット・モルー

京都公演スタッフ

京都芸術大学舞台芸術研究センター
技術監督：大田和司
舞台管理：大野淳一郎（ピーエーシーウエスト）
照明管理：小山陽美（ピーエーシーウエスト）
音響管理：寺坂素直（ピーエーシーウエスト）
プロジェクター調整：佐井優臣
舞台裏管理：結城敏恵
制作：川原美保、井川萌

宣伝美術：外山央
衣裳管理：川田桃寧（舞台芸術学科）
技術通訳：塚本玲奈
トーク通訳：辻井美穂

主催：京都芸術大学 舞台芸術研究センター
後援：イスラエル大使館
協力：世田谷パブリックシアター

original production of Suzanne Dellal Center
“Living Room” by Inbal Pinto

Choreography, Costume, Set Design, and
Wall Drawing: Inbal Pinto
Dancers : Moran Muller, Itamar Serussi
Original Music : Maya Belsizman
Lighting Design : Tamar Orr
Animation : Daniella Bokor
Additional music :
Franz Schubert /
Trio op. 100 – Andante con moto
Mister Bean / The Really Useful Guide to Alcohol –
Rowan Atkinson
Bistro Fada – Composed by Stephane Wrembel and
arranged by Maya Belsitzman
Umitaro Abe / Havanera De La Montagne
Special Accessories : Nir Zeiri
Costumes Assistant : Rinat Aharonson
Rehearsal Manager : Dina Ziv
Photographer : Michal Chelbin, Daniel Tchetchik
Technical Manager : Boaz Beja Gilad
Stage Manager : Neta Amit-Moreau
Producer : Evgenia Kuchuk
Production Agent : Lisa Rozov
Special thanks to Shula and
Shlomo Pinto and Gal Canetti



日本ツアー

東京公演	京都公演
5月19日(金)～21日(日)	5月26日(金)～27日(土)
世田谷パブリックシアター	京都芸術劇場 春秋座

インバル・ピント 『リビングルーム』

2023.5.26 fri - 27 sat
京都芸術劇場 春秋座 特設客席



※開演 10 分前より整理番号順にご入場いただきます。

※両日も終演後に春秋座ロビーにてインバル・ピントによるポストパフォーマンストークを行います。



ポストパフォーマンストーク質問受付

インバル・ピントさんへの質問を募集しております。
トーク開始までに左のQRコードよりお寄せください。
なお、皆様よりいただいたすべてのご質問にお答えで
きない場合もございます。予めご了承ください。



観劇アンケート

公演のご観劇のアンケートにご協力ください。左の
QRコードより専用フォームにご入力いただけます。

本日は、京都芸術大学舞台芸術研究センター主催、インバル・ピント『リビングルーム』にご来場いただき誠にありがとうございます。

イスラエルを代表するアーティストのひとり、インバル・ピントの作品を春秋座で上演するのは、カンパニー名義で創作された 2012 年『Gold Fish／ゴールドフィッシュ』ぶり 2 回目です。

本作『リビングルーム』は、パンデミックのさなかにクリエイションされました。可愛らしい模様とあたたかい色彩で描かれた壁（インバル・ピントによるデザイン）に囲まれたリビングルーム。その限られた空間のなかでときに制御され、ときに大きく放たれる、予測不能なダンサーたちのエネルギーは、同時期にパンデミックを経験した私たちひとりひとりの想像力と合わさって、それぞれの物語を紡ぎ出し、舞台芸術の醍醐味をあらためて感じさせることでしょう。

どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。

京都芸術大学 舞台芸術研究センター

『Gold Fish／ゴールドフィッシュ』以来、2 度目となる上演を、京都の地で実現できることを嬉しく思っています。

本作は、パンデミックの中、イスラエルのスザンヌ・デラール・センターの委嘱作品として生まれた、私の初めての長編デュオ作品です。

さまざまな状況や人々のアイデンティティが流動的な今、どんなに思い描こうとしても現実には予測不可能で、未来はいつでも勝手に書き換わっていきます。この新しい現実を探し出すための永遠の物語に、長い友人である 2 人の驚異的なダンサーが参加してくれました。コレオグラフィーとは、動きを構築することではなく、そのムーブメントが存在する宇宙を創造することです。誕生したコレオグラフィーたちはやがて対話を始め、そして次第にあなたにも話しかけてくるでしょう。それこそがあなたにとって自分自身を見つめなおす、すばらしい瞬間となれば幸いです。

インバル・ピント

インバル・ピント（Inbal Pinto）振付家、美術・衣裳デザイナー

イスラエル出身。13 歳からダンスを習う一方、イスラエルの名門美術学校 国立ベツアルエル美術アカデミーでグラフィックデザインを専攻。バットシェバ・アンサンブル、バットシェバ舞踊団を経て 1992 年にインバル・ピント・ダンスカンパニーを立ち上げ、2018 年まで芸術監督として『Dio-Can』『Wrapped』『オイスター』など数々の作品を発表。彼女の代名詞ともなるこれらユニークな作品たちは、ダンスと演劇の領域をはるかに越えるものとして世界中で高い評価を受ける。02年より、アヴシャロム・ポラックとの共同作業を開始、ダンス＝シアター作品の他、オペラやミュージカルなど多岐に渡るチャームिंगで想像力に満ちた傑作を生みだす。18 年よりフリーのアーティストとしてダンスや映像、オペラなどを手掛ける。近作に、『フーガ』（振付・衣裳デザイン・舞台美術／2018）、エドガル・ケレット原作・共同監督『OUTSIDE』（振付・監督／2020）、イスラエル国立オペラレオンカヴァッロ作曲『道化師』（演出・舞台美術・振付／2022）など。日本での創作も多く、宮沢賢治や芥川龍之介、村上春樹の作品を題材にしたダンス、ミュージカルなどの話題作、コラボレーション作品を演出・振付。その特別な世界観で観客を魅了してやまない。ベッシー章〈ニューヨーク・ダンス&パフォーマンス賞〉、イスラエル文化省大賞、テルアビブ市芸術功労賞など受賞多数。好物は抹茶アイス。

モラン・ミュラー（Moran Muller）ダンサー、振付家

米国ニュージャージー州生まれ。5 歳の時、一家でイスラエルに移住。イスラエル北部のキブツ・ガートン・ダンスヴィレッジにてダンサーとしての研鑽を積み、ナオミ・プルロフ、オフィール・ダガンのもと、プロフェッショナルなダンス教育を受ける。ナダヴ・ゼルナー、エイヤル・ダドン（SOL ダンスカンパニー）の作品に出演する他、フリーランスダンサーとして数々のプロジェクトに参加。2014～19 年にはインバル・ピント&アヴシャロム・ポラック ダンスカンパニーのメンバーとして活躍。ピントとエドガル・ケレットの共同監督作品『OUTSIDE』にも出演している。

イタマール・セルツシ（Itamar Serussi）ダンサー、振付家

イスラエル出身。ピントの初期作品に出演したのを始め、ノア・ダール、アナット・ダニエリの作品にダンサーとして参加。1998 年よりバットシェバ・アンサンブル、2000 年よりオハッド・ナハリン率いるバットシェバ舞踊団に所属。03～06 年、フリーランスのアーティストとしてイスラエル国内外の数々のプロジェクト、フェスティバルから招聘を受け、スカピーノバレエ（オランダ）、バレット・ディ・ローマ（イタリア）他、オーストリア、デンマーク、ドイツなどヨーロッパを中心に振付家として活動。パンデミックを機にイスラエルに帰国中、ピントからの熱烈なラブコールにより『リビングルーム』の参加が決まる。オランダ王立芸術アカデミー舞踊学修士。

マヤ・ベルシツマン（Maya Belsitzman）歌手、チェリスト、作曲・編曲家

イスラエル出身。ハヴァ・アルベルシュタイン、アヴィシヤイ・コーエン、シュロミ・シャパン、ニネット、エフド・バナイらイスラエルの著名なミュージシャンらとのレコーディング、アレンジ、プロデュースなど、さまざまなコラボレーションを手掛ける。また、パートナーであるマタン・エフラトとのデュオでワールドツアーを行う他、舞台や映画などにオリジナル楽曲を提供している。